

こたえ 三年ねたろう

ひょうじゅん 標準 ④

三年ねたろう (日本の昔話)

昔、ある村に、三年もねてばかりいる男がいました。村の人たちは、「三年ねたろう」とよんで、あきれていました。

その年、村には雨がふらず、田んぼはからからにかわいていました。

ある朝、ねたろうがむっくりと起きあがり、山の上へのぼっていききました。そして、大きな岩を力いっぱいおして、谷へ転がしました。

岩は、谷川をせき止めました。せき止められた水は、田んぼのほうへ流れていききました。

ねたろうは、ねている間、ずっと村に水を引く方法を考えていたのです。

村の人たちは、ねたろうにおれいを言いました。田んぼでは、また、いねが青々とそだつようになりました。

1 村の人たちは、男を何とよんでいましたか。

三
年
ね
た
ろ
う

2 その年、田んぼはどうなっていましたか。

ア 水があふれていた。

イ からからにかわいていた。

ウ 雪でうまっていた。

3 ねたろうは、何を谷へ転がしましたか。

大きな

岩

4 ねたろうは、ねている間、何をしていたのですか。

村に水を引く方法を、ずっと考えていた。

おうちの方へ

- 「なまけ者」と思われていた男の本当のすがたが、最後に分かる話です。